

Title	支部報告
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1937), 18(199): 37-38
Issue Date	1937-10-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167554
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

支 部 報 告

京 都 ・ 京 星 會 だ よ り (9月)

京都の若い同好者の熱と意氣によつて結成されてゐる京星會は、本月より第4年度に入り新進の幹事を加へ、相變らず元氣な動きを續けてゐる。

○第4年度總會 8日夜帝大樂友會館に定時總會を開催。役員改任、會務會計報告等の議事を簡単に済ませ、後はお茶とお菓子の和やかな懇親會に移り、會の天文寫眞帳や新刊書を見たり、天體撮影の話や軌道論まで飛出して愉快に一夕を過した。

○國防献金天體觀望會 社會教育事業として毎年秋季に催す事になつてゐる觀望會を、本年は時局に應じて國防献金天體觀望會として12日圓山公園で開催。

(11日は雨天の爲中止。)11呎反射8呎屈折其他5機を用ひ、

火星、木星、土



觀望會を終へて 多大の成果を納め大満悦の幹部連

星等の觀望を公開したが、折々雲の掛る空模様ながら1000名を越す參會者で賑ひ、用意された星座圖入のビラ、解説付月の寫眞、會リフレット等の印刷物1500枚が全部出盡し、有志者の献金は閉會まで3時間の間に15圓50銭に達し大盛況であつた。同献金は全額を出征軍人家族慰恤金として翌朝京都市へ寄託した。

○機關誌「星光」 會と會員に關する報道機關誌である「星光」の第3號は、卷頭に時局に對する會の態度を述べ、第3年度の諸報告並びに第4年度の豫定を掲載、會員名簿を附けて1日に發行された。

○天文急報「回報」 本月中に發行された「回報」は、諸事業開催通知及び新星發見、彗星位置豫報等で、第22號より第26號までであつた。

滿 洲 支 部 通 信 (12.8—9)

☑**天文普及會** 大連ヤマト・ホテルとの共同主催に依る天文普及會は、本月に入り燈火管制も解除せられ大いに功果が上る。7月及8月にて通計1030名に上る多人数の觀覽者を出した。(ホテル・ルーフ・ガーデン入場者の約3割)

8月13日星ヶ浦家族會館に於て通俗講演會を催した。15名の小人数であつたが、實にまとまつた會合であつた。

☑**中秋の名月觀賞會** 8月18日午後7時よりヤマト・ホテル・ルーフガーデンに於て大毎大連支局及山葉洋行後援、ヤマト・ホテルと共同主催の下に觀賞會を行ふ。7時30分河合孝一氏の“月に對するお話”に始まり、觀衆一同と共に月見團子を食べ乍ら月にあこがれ、或は望遠鏡を通じ或ひは肉眼にて、大都の地上百尺にて、ネオンサインを下に見て心ゆく迄月を觀賞す。

この日會する者100名、幹事私有望遠鏡 92^m/m 反射及 42^m/m 屈折にて觀賞す。

☑**支部雜誌發行準備** 9月20日幹事宅に於て支部役員會を開催今後の發展につき協議す。

1. 支部雜誌發行之件 中絶の支部報を再刊し眼よりの教育につき協議す。

2. 大連市内各學校への進出 市内學校當局者と連絡し學生に對し普及をはかること。

3. 奥地進出の件 大連市を基點とし先づ奉天・新京・哈爾賓・吉林・安東に向け進出することに決定。(來年初頭より開始の豫定)

愈々冬迫るの感深くし、天文普及も第二段となる。

冬迫るとの感に北支にはた亦中支に活躍する皇軍の勞苦をしのびてあまりあることを感じます。

例により會員の方で渡滿の折は御一報を。(12.9.28. 志龍須記)

靜 岡 よ り

靜岡縣青島町では大石辰次氏を中心とする同好者によつて、9月13日夜國防献金天體觀望會を開催。雨後の快晴に恵まれ、5.5^{mm}、5^{mm}、4^{mm}の3臺の屈折望遠鏡によつて木星を觀望、東朝、東日各新聞の發表後援あり、國防献金 2 圓26錢を得、同地方に前例のない壯舉であつた。